

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和5年9月6日（水）
- 2 確認箇所
K排水路
- 3 確認項目
K排水路の現況確認

4 確認結果の概要

K排水路は、1号機から4号機の原子炉建屋周囲やその西側（山側）を主な集水域とする排水路である。K排水路の排水路モニタでは、過去に、平成23年（2011年）の原発事故で集水域に沈着したフォールアウト（放射性降下物）が流入した影響とみられる放射性物質が検出されてきた。

東京電力は、周辺の瓦礫撤去やフェーシングを行い、表層の放射性物質が流出しないようにしてきた他、平成28年（2016年）にそれまで外洋側にあったK排水路の排出先を発電所港湾内に付け替えた。令和2年（2020年）には排水路モニタについてβ線+γ線で測定していたものをβ線が識別できるよう改良し、汚染水を精度良く検出できるようにするなどの対策を行ってきた。また、現在も定期的に排水路の水のサンプリングを行い、放射性物質の分析を行っている。今回はK排水路の現況について確認を行った。（図1）
（前回確認：令和5年2月9日）

なお、令和元年（2019年）を最後にK排水路における排水路モニタの警報は発生していない。

- ・ K排水路の排水路モニタであるP S Fモニタ^{※1}は、前回確認時と同様、排水路に直接設置されていた。（写真1）
- ・ P S Fモニタにて規定を超える放射性物質濃度を測定するなどの緊急時に排水を止めるためのゲートが設置されていた。（写真2）
- ・ 排水路には、ゲートを閉止した場合に排水を汲み上げるための可搬型ポンプが2台設置されており、移送先を確認したところ前回確認時と同様プロセス主建屋であった。（写真3）
- ・ K排水路出口の状況を確認したところ、水が流れていた。（写真4）

※1 P S Fモニタ：K排水路等の排水の放射性物質濃度を連続監視するための放射線検出器。降雨によるフォールアウトの影響（放射性Csのγ線）で指示値が上昇する傾向があるため、東京電力では、β線+γ線の検出部とγ線の検出部を有し、それぞれの測定値の差を取ることで、β線（Sr-90の寄与）が測定可能である弁別型P S Fモニタを採用している。

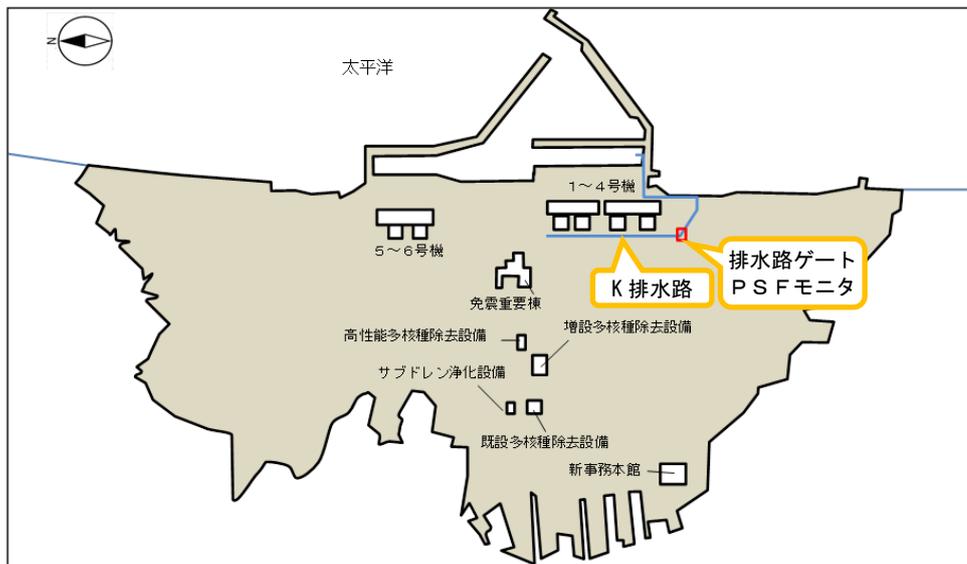


図1 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
K排水路P S F モニタ周辺の状況 (P S F モニタは地下排水路に設置されている)



(写真2)
排水路ゲートの設置状況



(写真3-1)
移送ホースの設置状況①



(写真 3 - 2)
移送ホースの設置状況②



(写真 4)
K排水路及びB C排水路の出口
の状況

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。